



特別活動 2年

題材名：「<sup>に</sup>2じいろしゅうかくさい」をしよう

本時のねらい	「2じいろしゅうかくさい」のクラスの企画について、「Sさんが喜んでくれるか」「自分たちで創れるか」の観点に沿って合意形成を図る話し合い活動を通して、「自分もよくみんなもよい」意見を考えることができるようにする。
評価規準	「2じいろしゅうかくさい」のクラスの企画について、「自分もよくみんなもよい」意見を考えることができる。
具体的な児童の姿	・提案理由に沿って、意見を考えられたよ。 ・「自分もよくみんなもよい」ものを考えたから、折り合いがつけられたんだね。

時間	児童の活動	指導O及び留意点・ ◎評価〈方法〉※支援を要する児童への手立て	準備物
5分	1. 議題やめあてなどを確認する。	○自分の立場を明確にした上で話し合いに入れるよう、事前にロイロノートでそれぞれの考えを提出させておく。	学級会ノート
	議題：「2じいろしゅうかくさい」をしよう。		
	提案理由：Sさんのおかげでやさいが大きくそだった。なのに、まだ「ありがとう」の心がつたえられていない。そこで、「Sさんがよろこんでくれる」パーティーを、「自分たちの手で作りたい」から。		
	めあて：ていあんりゆうにそって「自分もよくみんなもよい」ものを考えよう。	○提案理由の中にある「Sさんが喜んでくれるか」「自分たちで創れるか」の観点に沿って話し合うことを確認する。	
			
17分	2. 「2じいろしゅうかくさい」で行うクラスの企画について話し合う。	話し合い①：サンくみのきかくは何をするか。 ○学級全体で話し合い、クラスの企画を一つに決めさせる。 ・「Sさんが喜んでくれるか」の観点については、「①ありがとう」「②たくさん知ったよ」の気持ちが伝わるものになっているかを考えさせる。また、「自分たちで創れるか」の観点については、「①みんなで」「②2週間で」創れるものになっているかを考えさせる。 ・「Sさんが喜んでくれるか」の観点については、独りよがりな思いにならないように、事前にSさんの思いを電話インタビューなどで聞いておく工夫があるとよい。 ・黒板記録の児童には、賛成意見（赤）・反対意見（青）を	
			



色マークで整理して板書させる。意見をまとめる際の根拠として活用させる。

◎合意形成を図るために「自分もよくみんなもよい」という観点で考えを出し合うことができる。〈発言分析・記録分析〉

- 15分 3. どんな工夫ができるかについて話し合う。
- 2分 4. 決まったことを確認する。
- 5分 5. 本時の振り返りを行う。

**話し合い②：どんなくふうができるか。**

○学級全体で話し合い、実践上の工夫を決めさせる。

- ・実践上の工夫についても、「Sさんが喜んでくれるか」「自分たちで創れるか」の観点に沿って話し合わせる。
- ・はじめにグループで交流させた後、全体で出し合わせる。

◎合意形成を図るために「自分もよくみんなもよい」という観点で考えを出し合うことができる。〈発言分析・記録分析〉

○まだ検討が必要な事項があれば、合わせて確認させる。

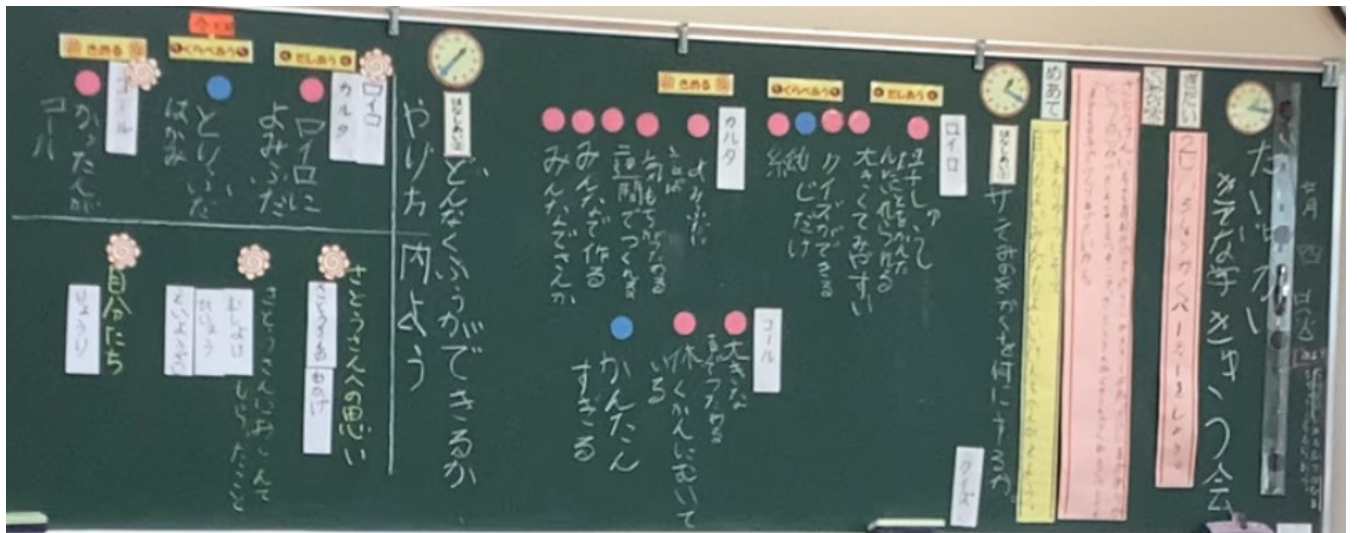
○めあてについての振り返りを、学級会ノートに書かせる。

- ・自分自身の振り返りだけでなく、友達のよさや頑張りについても記述させる。

○全体で交流させる。

- ・次時は、朝の会（ミニ学級会）で役割分担について話し合うことを伝える。

学級会ノート



**1人1台端末の使用は効果的であったか**

○特別活動の限られた時数の中で、話し合いの柱に沿って議論する時間を十分に確保するために、事前にロイロノートに意見を出し合わせた。ロイロノート上の色分けしたカードを見れば、視覚的にそれぞれの立場を捉えられるため、司会グループの打ち合わせの際にも活用することができた。

▲合意形成のためのツールとして、タブレット端末を活用することは、機械的な操作に陥らないよう十分に考慮する必要がある。一方、本時では、考えを出し合う場面での活用に限られていたため、比べ合ったりまとめたりする場面での効果的な活用方法についても、今後検証していきたいと考えている。